

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-201147

(P2012-201147A)

(43) 公開日 平成24年10月22日(2012.10.22)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 0 N 2/48 (2006.01)	B 6 0 N 2/48	3 B 0 8 4
A 4 7 C 7/38 (2006.01)	A 4 7 C 7/38	3 B 0 8 7

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 27 頁)

(21) 出願番号	特願2011-65679 (P2011-65679)	(71) 出願人	000220066
(22) 出願日	平成23年3月24日 (2011. 3. 24)		テイ・エス テック株式会社
			埼玉県朝霞市栄町 3 丁目 7 番 2 7 号
		(74) 代理人	100090033
			弁理士 荒船 博司
		(74) 代理人	100093045
			弁理士 荒船 良男
		(72) 発明者	田中 裕二
			栃木県塩谷郡高根沢町大字太田 1 1 8 番地
			1 テイ・エス テック株式会社内
		(72) 発明者	清水 秀一
			栃木県塩谷郡高根沢町大字太田 1 1 8 番地
			1 テイ・エス テック株式会社内
		F ターム (参考)	3B084 DB09 DC02 DD07
			3B087 DC07 DC08

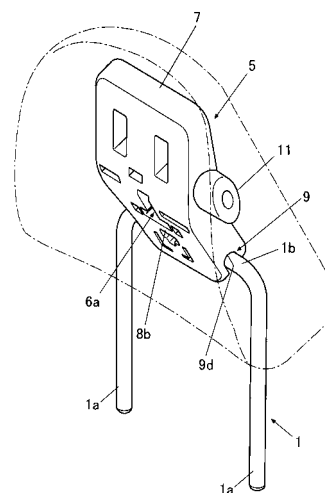
(54) 【発明の名称】 ヘッドレスト

(57) 【要約】

【課題】 ヘッドレスト本体の剛性を向上させつつ、ヘッドレスト本体の前後方向への回動操作の安定性を向上させることが可能なヘッドレストの前後位置調整装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 ヘッドレストピラー 1 と、ロックブラケット 4 と、ヘッドレスト本体 5 と、ロック機構とを備え、ヘッドレスト本体 5 の包囲部 8 を、ロックブラケット 4 の左右両側面にそれぞれ対向する一对の補強リブ 8 a、8 a と、該包囲部 8 の前側および後側に設けられるとともに、ヘッドレスト本体 5 の回動時に、ロックブラケット 4 の前端 4 a と後端 4 b にそれぞれ当接するストッパー部 8 b、8 c、8 c と、を含んで構成する。これにより、一对の補強リブによってヘッドレスト本体の剛性を向上できるとともに、ヘッドレスト本体を、前側のストッパー部と後側のストッパー部との間で前後方向に回動させることができる。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

左右に配置される横軸部を有するヘッドレストピラーと、
前記横軸部に、前方に傾斜して固定されるロックブラケットと、
乗員の頭部を受ける前面壁部と、この前面壁部の背面側に一体形成されるとともに前記ロックブラケットを包囲する包囲部とを有しており、この包囲部によって、前記ロックブラケットを包囲した状態で、前記横軸部に対して前後方向に回動自在に取り付けられるヘッドレスト本体と、
前記ヘッドレスト本体を、前記ロックブラケットに対して複数の傾斜角度でロックするロック機構と、を備えており、
前記包囲部は、前記前面壁部の背面側から後方に向かって突出し、前記ロックブラケットの左右両側面にそれぞれ対向する一对の補強リブと、
該包囲部の前側および後側に設けられるとともに、前記ヘッドレスト本体の回動時に、前記ロックブラケットの前端と後端にそれぞれ当接するストッパー部と、を含んで構成されていることを特徴とするヘッドレスト。

10

【請求項 2】

前記前面壁部に、前記ロックブラケットを前方に露出させる開口部が形成されており、
前記一对の補強リブは、前記開口部の左右側縁部から後方に向かって突出して形成されており、
前記前側のストッパー部は、前記一对の補強リブの前面壁部側端部間に架設されるとともに、前記前面壁部と一体形成されており、
前記後側のストッパー部は、前記一对の補強リブの後方突出側端部間に架設されるとともに、該一对の補強リブと一体形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のヘッドレスト。

20

【請求項 3】

前記前面壁部は、乗員の頭部を受ける部分の背面側に設けられるとともに、この前面壁部を補強するための補強部を備えていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のヘッドレスト。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

本発明は、車両用シートに設けられるヘッドレストに関する。

【背景技術】

【0002】

車両用シートのヘッドレストは、シート着座時における快適性の向上と、車両衝突時の頭部支持による安全性の向上等のために設けられている。

ヘッドレストにより得られる快適性や安全性は、ヘッドレストが乗員の頭部に対して適切な位置であることが重要となる。そこで、ヘッドレストピラーによるヘッドレストの高さ調整だけでなく、前後方向の角度も調整できる技術が開発されている（例えば、特許文献 1 参照）。

40

特許文献 1 に記載の技術は、ヘッドレストピラーの横軸部に、横軸部よりも小径のコイルバネを挿着し、コイルバネの他端を、中空状のヘッドレストフレーム（以下、ヘッドレスト本体）の内壁面に係止したものである。また、ヘッドレスト本体は、このヘッドレスト本体を貫通するヘッドレストピラーの横軸部に対して前後方向に回動自在に取り付けられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開平 08-164035 号公報

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、特許文献1に記載のヘッドレスト本体は、前後方向への回動や、急な後方回動のブレーキングを、コイルバネの拡張および縮径の性質を利用して行っており、前後方向への回動を規制するストッパーやロック機構等は特に設けられていない。そのため、ヘッドレスト本体の前後方向への回動操作が安定しない場合がある。

また、ヘッドレスト本体は、コイルバネの一端をヘッドレスト本体内部で自由端とし、他端を内壁面に係止するため、さらに、ヘッドレストピラーの横軸部を貫通させるために中空状に形成されている。ところが、このように中空状に形成されてしまうと、剛性が低下してしまう場合があるため、剛性を向上させたいという要望がある。

10

【0005】

本発明の課題は、ヘッドレスト本体の剛性を向上させつつ、ヘッドレスト本体の前後方向への回動操作の安定性を向上させることが可能なヘッドレストの前後位置調整装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

以上の課題を解決するため、請求項1に記載の発明は、左右に配置される横軸部を有するヘッドレストピラーと、

前記横軸部に、前方に傾斜して固定されるロックブラケットと、

乗員の頭部を受ける前面壁部と、この前面壁部の背面側に一体形成されるとともに前記ロックブラケットを包囲する包囲部とを有しており、この包囲部によって、前記ロックブラケットを包囲した状態で、前記横軸部に対して前後方向に回動自在に取り付けられるヘッドレスト本体と、

20

前記ヘッドレスト本体を、前記ロックブラケットに対して複数の傾斜角度でロックするロック機構と、を備えており、

前記包囲部は、前記前面壁部の背面側から後方に向かって突出し、前記ロックブラケットの左右両側面にそれぞれ対向する一対の補強リブと、

該包囲部の前側および後側に設けられるとともに、前記ヘッドレスト本体の回動時に、前記ロックブラケットの前端と後端にそれぞれ当接するストッパー部と、を含んで構成されていることを特徴とする。

30

【0007】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のヘッドレストにおいて、

前記前面壁部に、前記ロックブラケットを前方に露出させる開口部が形成されており、

前記一対の補強リブは、前記開口部の左右側縁部から後方に向かって突出して形成されており、

前記前側のストッパー部は、前記一対の補強リブの前面壁部側端部間に架設されるとともに、前記前面壁部と一体形成されており、

前記後側のストッパー部は、前記一対の補強リブの後方突出側端部間に架設されるとともに、該一対の補強リブと一体形成されていることを特徴とする。

【0008】

40

請求項3に記載の発明は、請求項1または2に記載のヘッドレストにおいて、

前記前面壁部は、乗員の頭部を受ける部分の背面側に設けられるとともに、この前面壁部を補強するための補強部を備えていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

請求項1に記載の発明によれば、ヘッドレスト本体の包囲部は、前面壁部の背面側から後方に向かって突出し、ロックブラケットの左右両側面にそれぞれ対向する一対の補強リブを含んで構成されているので、これら一対の補強リブによってヘッドレスト本体の剛性を向上させることができる。

また、ヘッドレスト本体の包囲部は、ロックブラケットの前端と後端にそれぞれ当接す

50

るストッパー部を含んで構成されているので、ヘッドレスト本体を、前側のストッパー部と後側のストッパー部との間で前後方向に回動させることができる。これによって、ヘッドレスト本体を回動させる範囲を明確にすることができるので、このヘッドレスト本体の回動操作は、前側のストッパー部と後側のストッパー部との間の範囲でのみ行われることになり、ヘッドレスト本体の回動操作を安定的に行うことが可能となる。

【0010】

請求項2に記載の発明によれば、前面壁部に、ロックブラケットを前方に露出させる開口部が形成されことによって、ヘッドレスト本体の軽量化を図るだけでなく、前側のストッパー部を、一对の補強リブの前面壁部側端部間に確実に架設できるとともに、前面壁部と確実に一体形成できる。

10

さらに、前側のストッパー部が前面壁部と一体形成され、後側のストッパー部が一对の補強リブと一体形成されているので、ロックブラケットの前端および後端に当たる該前側のストッパー部および後側のストッパー部自体の剛性を向上させるだけでなく、ヘッドレスト本体の剛性もより向上させることができる。

【0011】

請求項3に記載の発明によれば、前面壁部は、乗員の頭部を受ける部分の背面側に設けられるとともに、この前面壁部を補強するための補強部を備えているので、この補強部によって前面壁部の剛性を向上させることができ、延いては、ヘッドレスト本体の剛性をさらに向上させることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】ヘッドレストの一例を示す前方斜視図である。

【図2】同、後方斜視図である。

【図3】同、背面図である。

【図4】同、左側面図である。

【図5】同、右側面図である。

【図6】ロック機構付近を示す拡大背面図である。

【図7】同、拡大側断面図である。

【図8】(a)はヘッドレスト本体を下端面側から見た図であり、(b)はヘッドレスト本体の取付態様を示す図である。

30

【図9】ヘッドレスト本体が前後方向に回動する状態を説明する図である。

【図10】包囲部とロックブラケットとの間にクリック機構が設けられる形態を示す断面図である。

【図11】把持部とヘッドレストピラーの横軸部との間にクリック機構が設けられる形態を示す側面図である。

【図12】ヘッドレストの一例を示す分解斜視図である。

【図13】図12に示すヘッドレストのヘッドレスト本体を示す後方斜視図である。

【図14】底面カバー部とヘッドレストピラーの支柱との間にクリック機構が設けられる形態を示す図である。

【発明を実施するための形態】

40

【0013】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【0014】

<第1の実施の形態>

本実施の形態において符号1は、ヘッドレストを構成するヘッドレストピラーを示す。このヘッドレストピラー1は、図1および図2に示すように、左右に離間する一对の支柱1a、1aと、これら一对の支柱1a、1aの上端部間に架設される横軸部1bと、を有する。

これら一对の支柱1a、1aと横軸部1bとは一体形成されており、これら一对の支柱1a、1aと横軸部1bとの中間に位置する部位は屈曲形状を成している。

50

また、前記一对の支柱 1 a, 1 a と横軸部 1 b とのうち、少なくとも横軸部 1 b は断面正円状に形成されている。

【0015】

また、前記横軸部 1 b には、ロック機構を構成するためのロックブラケット 4 が、前方に傾斜して固定されている。

このロックブラケット 4 は金属製の板状体であり、図 8～図 10 に示すように、基端部 4 c から上端部 4 d に向かうにつれて前後方向に広がるように形成されている。また、上端部 4 d には、複数のロック用孔 20…が形成されている。

また、基端部 4 c に、アーチ型の軸受け面を形成することによって、前記横軸部 1 b を把持するようにして該横軸部 1 b に設けられている。また、この基端部 4 c は横軸部 1 b に対して溶接等により強固に接合固定されている。

10

【0016】

また、前記横軸部 1 b には、図 2 および図 3 に示すように、付勢部材 3 を取り付けるための取付部 2, 2 が固定されている。なお、本実施の形態において、これら取付部 2, 2 は、前記ロックブラケット 4 の左右両側に、該ロックブラケット 4 から離間し、かつ該ロックブラケット 4 から等しい間隔で配置されている。

なお、前記付勢部材 3 はコイルバネとされている。このため、前記取付部 2, 2 は、フック状に形成されており、コイルバネ 3 の下端部を引掛けることができる。このコイルバネである付勢部材 3 は、後述するヘッドレスト本体 5 を横軸部 1 b 側に引き寄せる方向に付勢する引張バネである。

20

また、取付部 2, 2 は、横軸部 1 b に対して溶接等により強固に接合固定されている。

【0017】

さらに、前記横軸部 1 b には、図 1～図 11 に示すように、ヘッドレストを構成するヘッドレスト本体 5 が、この横軸部 1 b に対して前後方向に回動自在となるように取り付けられている。すなわち、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b の軸心が、前記ヘッドレスト本体 5 の回動中心軸とされている。

また、このヘッドレスト本体 5 は樹脂製とされており、軽量化に貢献できるようになっている。さらに、このヘッドレスト本体 5 には、クッションパッドおよび表皮（いわゆるカバー）が被せられるようになっている。

このようなヘッドレスト本体 5 は、前面壁部 6 と、周面壁部 7 と、包囲部 8 と、把持部 9 と、保持部 10 と、を有している。続いて、このヘッドレスト本体 5 の構成について説明する。

30

【0018】

前記前面壁部 6 は、図 4 および図 5 に示すように、上下方向中央付近で前方に湾曲しており、湾曲部分よりも上方の前面壁部 6 上部は、下方の前面壁部 6 下部よりも幅広になるように形成されている。そして、湾曲部分よりも上方の前面壁部 6 上部が乗員の頭部を受ける部位とされる。また、前面壁部 6 下部は前方に傾斜して配置されており、これによって、前記前面壁部 6 上部を、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b よりも前方に配置させることができる。

また、前面壁部 6 には、この前面壁部 6 を厚さ方向に貫通する開口部 6 a が、この前面壁部 6 の中央付近から下部にかけて形成されている。

40

さらに、この前面壁部 6 は、図 2 および図 3 に示すように、補強部 6 b, 6 b と、補強部 6 c と、抱持部 6 d と、支持部 6 e と、取付部 6 f, 6 f と、を備えている。

【0019】

補強部 6 b, 6 b は前面壁部 6 を補強するためのものであり、図 1～図 3 に示すように、乗員の頭部を受ける部分の背面側に設けられている。すなわち、前記前面壁部 6 上部の背面側に設けられている。

これら補強部 6 b, 6 b は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして形成されており、例えばビードやリブ等のように前面壁部 6 の背面側から突出することから、該前面壁部 6 の補強機能を備える。

50

なお、これら補強部 6 b, 6 b は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 と一体に成形されており、これに伴って、該補強部 6 b, 6 b が位置する部位の前面壁部 6 の正面側には、それぞれ凹部が形成された状態となっている。

【0020】

補強部 6 c は前面壁部 6 を補強するためのものであり、図 2 ～図 6 に示すように、前面壁部 6 の湾曲部分の背面側に配置され、後述する周面壁部 7 と包囲部 8 との間に架設されている。

この補強部 6 c は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして形成されており、例えばビードやリブ等のように前面壁部 6 の背面側から突出することから、該前面壁部 6 の補強機能を備える。また、この補強部 6 c の内部には、該補強部 6 c を左右方向に貫通するとともに、前記周面壁部 7 を厚さ方向に貫通する貫通孔 2 1 a が形成されている。この貫通孔 2 1 a には、後述するロックピン部 2 2 a の先端部が挿入される。

なお、この補強部 6 c は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 と一体に成形されており、これに伴って、該補強部 6 c が位置する部位の前面壁部 6 の正面側には凹部が形成された状態となっている。

【0021】

抱持部 6 d は、図 2, 図 3, 図 6, 図 7 に示すように、前記前面壁部 6 の背面側に、前記補強部 6 c および包囲部 8 よりも上方に位置するようにして設けられている。

また、この抱持部 6 d は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するとともにアーチ型に形成されている。この抱持部 6 d のアーチの内側には、後述するシャフト部 2 2 b が挿入される。すなわち、シャフト部 2 2 b は、この抱持部 6 d によって抱持されたような状態となる。

なお、この抱持部 6 d は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 と一体に形成されている。また、この抱持部 6 d が設けられる箇所には、前記前面壁部 6 を厚さ方向に貫通する開口部が形成されている。この抱持部 6 d は、この開口部の上縁と下縁との間でアーチ型に形成されており、シャフト部 2 2 b を左右方向に挿入することができる。

また、この抱持部 6 d も、上述のように前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして形成されているため、前記補強部 6 b や補強部 6 c と同様に、前記前面壁部 6 の補強機能を有しているものとする。

【0022】

支持部 6 e は、図 3, 図 6, 図 7 に示すように、前記前面壁部 6 の背面側に、前記補強部 6 c および包囲部 8 よりも上方に位置するようにして設けられている。また、前記抱持部 6 d と隣り合うようにして配置されている。

また、この支持部 6 e は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして形成されている。この支持部 6 e の突出方向側端面は、突出方向とは反対の方向に凹む曲面となるように形成されるとともに、この曲面は左右方向（シャフト部 2 2 b の長さ方向）に連続しており、この曲面に沿ってシャフト部 2 2 b を配置することができる。すなわち、支持部 6 e によってシャフト部 2 2 b を支持することができる。また、この支持部 6 e に隣り合う前記抱持部 6 d では、シャフト部 2 2 b を抱持しているため、これら支持部 6 e と抱持部 6 d とでシャフト部 2 2 b を挟み込んだ状態となっている。

なお、この支持部 6 e は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 と一体に形成されている。また、この支持部 6 e の正面側には開口部および凹部が形成されていないが、適宜変更可能であることは言うまでもない。

また、この支持部 6 e も、上述のように前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして形成されているため、前記補強部 6 b や補強部 6 c と同様に、前記前面壁部 6 の補強機能を有しているものとする。

【0023】

取付部 6 f, 6 f は、前記付勢部材 3 を取り付けるためのものであり、図 2 および図 3 に示すように、前記前面壁部 6 下部の背面側に設けられている。

また、取付部 6 f, 6 f は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するとともにアー

10

20

30

40

50

チ型に形成されており、前記付勢部材 3 の上端部を引掛けることができる。

なお、これら取付部 6 f, 6 f は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 と一体に成形されている。また、これら取付部 6 f, 6 f が設けられる箇所には、前記前面壁部 6 を厚さ方向に貫通する開口部が形成されており、これら取付部 6 f, 6 f は、開口部の上縁と下縁との間でアーチ型に形成されている。

また、これら取付部 6 f, 6 f も、上述のように前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして形成されているため、前記補強部 6 b や補強部 6 c と同様に、前記前面壁部 6 の補強機能を有しているものとする。

【0024】

なお、これら取付部 6 f, 6 f は、前記取付部 2, 2 の上方にそれぞれ位置しており、上下方向に配置された取付部 2 と取付部 6 f との間に付勢部材 3 が架け渡されている。すなわち、コイルバネである付勢部材 3 の下端部が前記取付部 2 に取り付けられており、上端部が前記取付部 6 f に取り付けられている。

そして、このように、横軸部 1 b に固定された取付部 2, 2 と、ヘッドレスト本体 5 の前面壁部 6 の背面側に設けられた取付部 6 f, 6 f との間に、付勢部材 3, 3 がそれぞれ架設されているので、これら付勢部材 3, 3 によって、可動部分であるヘッドレスト本体 5 を後方付勢することができる。すなわち、ヘッドレスト本体 5 は、前後方向への回動がロックされない状態においては常に後方に戻るよう設定されている。

【0025】

前記周面壁部 7 は、図 1 ～図 5 に示すように、前記前面壁部 6 の外周縁部に沿って設けられるとともに、該前面壁部 6 と一体形成されている。また、この周面壁部 7 は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出して形成されている。したがって、この周面壁部 7 も、前記補強部 6 b や補強部 6 c と同様に、前記前面壁部 6 の補強機能を有しているものとする。

また、この周面壁部 7 には、図 2, 図 5, 図 6 に示すように、後述するロック部材 2 2 を挿通させるための挿入スリット 7 a が形成されている。

また、この周面壁部 7 には、上述のように前記貫通孔 2 1 a が形成されるとともに、図 2 に示すように、シャフト部 2 2 b の端部側を挿通させるための貫通孔 7 b が形成されている。なお、このシャフト部 2 2 b の端部は、貫通孔 7 b に挿通されて、前記周面壁部 7 から外側に突出して設けられることになる。このように前記周面壁部 7 から突出するシャフト部 2 2 b の端部には、図 1 ～図 4 に示すように、ボタン 1 1 が取り付けられている。

【0026】

前記包囲部 8 は、図 2 ～図 6, 図 8 ～図 1 1 に示すように、前記ロックブラケット 4 を包囲するものであり、前記前面壁部 6 の背面側に、該背面側から後方に突出するようにして一体形成されている。つまり、前記ヘッドレスト本体 5 は、この包囲部 8 によってロックブラケット 4 を包囲した状態で、前記横軸部 1 b に対して前後方向に回動自在に取り付けられている。

この包囲部 8 は、一対の補強リブ 8 a, 8 a と、ストッパー部 8 b, 8 c, 8 c と、を含んで構成されている。

【0027】

一対の補強リブ 8 a, 8 a は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に向かって突出し、前記ロックブラケット 4 の左右両側面にそれぞれ対向している。

また、これら一対の補強リブ 8 a, 8 a は、前記前面壁部 6 の中央付近から下部にかけて形成された開口部 6 a の左右側縁部から後方に向かって突出して形成されている。したがって、これら一対の補強リブ 8 a, 8 a は、前記開口部 6 a の左右側縁部の形状に沿って形成されている。さらに、これら一対の補強リブ 8 a, 8 a が、前記開口部 6 a の左右側縁部に沿って設けられるため、開口部 6 a から前記ロックブラケット 4 を前方に露出させることができる。

なお、これら一対の補強リブ 8 a, 8 a のうち、一方の補強リブ 8 a 側に前記補強部 6 c が設けられており、他方の補強リブ 8 a 側に、後述するピン貫通孔 2 1 が形成されてい

10

20

30

40

50

る。

【0028】

ストッパー部 8 b, 8 c, 8 c は、前記ヘッドレスト本体 5 の回動時に、前記ロックブラケット 4 の前端 4 a と後端 4 b にそれぞれ当接するものであり、包囲部 8 の前側および後側に設けられている。なお、本実施の形態において、後側のストッパー部 8 c は複数設けられている。

前側のストッパー部 8 b は、前記一对の補強リブ 8 a, 8 a の前面壁部 6 側端部間に架設されるとともに、前記前面壁部 6 と一体形成されている。すなわち、この前側のストッパー部 8 b は、前記開口部 6 a を左右に横切るようにして前面壁部 6 と一体形成されている。

10

また、後側のストッパー部 8 c, 8 c は、前記一对の補強リブ 8 a, 8 a の後方突出側端部間に架設されるとともに、該一对の補強リブ 8 a, 8 a と一体形成されている。後側のストッパー部 8 c, 8 c のうち、一方のストッパー部 8 c は、背面視において包囲部 8 の中央付近に設けられており、他方のストッパー部 8 c は、背面視において包囲部 8 の下端部に設けられている。

【0029】

包囲部 8 は、上述のように一对の補強リブ 8 a, 8 a 間に複数のストッパー部 8 b, 8 c, 8 c を架設することによって形成されている。

また、前記一对の補強リブ 8 a, 8 a は、前記開口部 6 a の左右側縁部から後方に向かって突出して形成されているため、これら一对の補強リブ 8 a, 8 a 間には隙間が形成されている。

20

また、この隙間は、前記ストッパー部 8 c, 8 c によって複数に区切られている。そのうち、包囲部 8 の下端部に位置する隙間は、ロックブラケット 4 を、包囲部 8 の内部に差し込むための差込口 8 d とされている。また、上方の後側のストッパー部 8 c と下方の後側のストッパー部 8 c との間に位置する隙間は符号 8 e で示されており、上方の後側のストッパー部 8 c よりも上方の隙間は符号 8 f で示されている。これら差込口 8 d および隙間 8 e, 8 f からは、前記ロックブラケット 4 が露出している。

【0030】

前記把持部 9 は、図 1 ～図 5, 図 8, 図 10, 図 11 に示すように、前記横軸部 1 b を把持するためのものであり、前記ヘッドレスト本体 5 の下端部に設けられており、下方に向かって開放されている（開放部 9 a）。また、この開放部 9 a には、前記横軸部 1 b およびロックブラケット 4 が差し込まれている。

30

また、この把持部 9 の上方には、前記包囲部 8 が配置されている。また、この把持部 9 に差し込まれたロックブラケット 4 は、この把持部 9 を通過して、前記包囲部 8 の差込口 8 d から包囲部 8 内部に差し込まれる。

【0031】

なお、把持部 9 は、前記ヘッドレスト本体 5 の前面壁部 6 および周面壁部 7 の下端部を含んだ状態で構成されている。すなわち、周面壁部 7 の下端部に、前記横軸部 1 b およびロックブラケット 4 を差込可能な形状のスリットを形成したものが前記開放部 9 a とされている。

40

より詳細には、このスリットである開放部 9 a は、前記周面壁部 7 のうち、左右いずれか一方側に位置する周面壁部 7 の下端部から、前面壁部 6 の下端部に沿って設けられる周面壁部 7 を介し、左右いずれか他方側に位置する周面壁部 7 の下端部まで形成されている。そして、左右両側の周面壁部 7, 7 の下端部にて前記横軸部 1 b を把持している。

また、把持部 9 は、前記開放部 9 a の一部として該開放部 9 a の中央に、該開放部 9 a の開放広さを拡張するための拡張部 9 b を備えている。この拡張部 9 b によって開放部 9 a の中央付近の開放広さが拡張されることによって、前記ロックブラケット 4 を確実に把持部 9 および前記差込口 8 d に差し込むことができるようになっている。

【0032】

また、把持部 9 は、この把持部 9 を構成する左右両側の周面壁部 7, 7 間の位置に、前

50

記横軸部 1 b を把持するアーチ型把持片 9 c, 9 c を有している。また、これらアーチ型把持片 9 c, 9 c は、前記取付部 2, 2 よりも内側に、かつ該取付部 2, 2 にそれぞれ隣接するようにして配置されている。

アーチ型把持片 9 c, 9 c は、把持部 9 を構成する周面壁部 7 の下端面のうち、前記開放部 9 a であるスリットの前面壁部 6 側に位置する部位と、後方側に位置する部位との間にアーチ型に架設形成されている。

なお、アーチ型把持片 9 c, 9 c は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 および周面壁部 7 と一体に成形されている。アーチ型把持片 9 c, 9 c の前面壁部 6 側端部は、前面壁部 6 よりも肉厚に形成されており、該アーチ型把持片 9 c, 9 c の肉厚部分が位置する部位の前面壁部 6 の正面側には、それぞれ凹部が形成された状態となっている。なお、本実施の形態の肉厚部分は略 L 字型に形成されており、前面壁部 6 の正面側に形成される凹部も略 L 字型となっている。

【0033】

また、把持部 9 は、前記横軸部 1 b の長さ方向に沿って該横軸部 1 b の外周面を受けるとともに、継目のない状態で構成された軸受け面 9 d …を備えている。

これら軸受け面 9 d …は、前記周面壁部 7 のうち、前記横軸部 1 b を把持する左右両側の周面壁部 7, 7 の下端部に位置する開放部 9 a の内側面と、前記アーチ型把持片 9 c, 9 c の内側面とを指している。したがって、これら軸受け面 9 d …は、前記横軸部 1 b の長さ方向に沿って間隔をあけて配置された状態となっている。

【0034】

前記保持部 10 は、後述する付勢部材 23 を保持するためのものであり、この付勢部材 23 はコイルバネが採用されている。なお、このコイルバネである付勢部材 23 は、該付勢部材 23 を圧縮する方向に移動するロック部材 22 (後述する) を、押し返す方向に付勢する押しバネである。

この保持部 10 は、図 2 および図 3, 図 6, 図 7 に示すように、前記前面壁部 6 の背面側に、前記包囲部 8 および抱持部 6 d 付近に位置するようにして設けられている。また、保持部 10 は、ヘッドレスト本体 5 の製造段階で、前面壁部 6 と一体に成形されており、これに伴って、該保持部 10 が位置する部位の前面壁部 6 の正面側には凹部が形成された状態となっている。なお、この凹部の後端、すなわち保持部 10 の前面壁部 6 からの突出端部には開口部が形成されており、この開口部を挟んで上方および下方に、後述する支持部 10 a, 10 a がそれぞれ配置されている。

また、この保持部 10 は、支持部 10 a, 10 a と、当接部 10 b と、引掛部 10 c と、連結板部 10 d と、を備えている。

【0035】

支持部 10 a, 10 a は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に突出するようにして一体形成されており、コイルバネである前記付勢部材 23 の外径部 23 a に当接するものである。そして、該付勢部材 23 を前記前面壁部 6 から離間した位置に位置している。

すなわち、支持部 10 a の突出方向側端面は、前記付勢部材 23 の外径部 23 a に合わせて凹む曲面となるように形成されるとともに、この曲面は左右方向(付勢部材 23 の伸縮方向)に連続しており、この曲面に沿って付勢部材 23 を配置することができる。

なお、前記連結板部 10 d は、これら支持部 10 a, 10 a 間に架設されており、これら支持部 10 a, 10 a を部分的に連結している。連結板部 10 d によって支持部 10 a, 10 a を部分的に連結することができるので、これら支持部 10 a, 10 a の剛性を向上させることができるので好ましい。

【0036】

当接部 10 b は、前記支持部 10 a, 10 a と対向するとともに、前記コイルバネである付勢部材 23 の伸縮方向に沿って設けられている。また、この当接部 10 b は、前記付勢部材 23 の内径部 23 b に当接している。なお、この当接部 10 b の付勢部材 23 側面は、図 7 に示すように、付勢部材 23 の内径部 23 b 側に膨らむ曲面となるように形成されており、前記付勢部材 23 の内径部 23 b に密接する構成とされている。

より詳細には、この当接部 10b は棒状体であり、平面視において前記 2 つの支持部 10a, 10a 間の隙間の延在方向に沿って設けられており、この当接部 10b によって、前記コイルバネである付勢部材 23 を、前記支持部 10a, 10a 間の隙間に向かって押さえているような状態となっている。

なお、この当接部 10b は、保持部 10 の包囲部 8 側端部から周面壁部 7 側に向かって突出している。この当接部 10b の突出長さは、突出方向側端部が、前記付勢部材 23 が最も圧縮した状態の包囲部 8 側端部の位置と略等しくなるか、または最も圧縮した状態の包囲部 8 側端部よりも若干、周面壁部 7 側よりとなるように設定されている。すなわち、付勢部材 23 が最も圧縮した状態となっても、該付勢部材 23 が当接部 10b から外れない程度の長さに設定されている。

10

【0037】

引掛部 10c は、前記周面壁部 7 に、前記当接部 10b と対向するようにして設けられており、該周面壁部 7 から当接部 10b 側に若干突出するようにして形成されている。そして、この引掛部 10c は、前記付勢部材 23 の周面壁部 7 側端部に引っ掛かった状態となっており、前記付勢部材 23 の周面壁部 7 側端部が外れることを防ぐことができる。

なお、この引掛部 10c も前記当接部 10b と同様に、前記付勢部材 23 の内径部 23b に当接しており、この引掛部 10c と前記支持部 10a, 10a との間に付勢部材 23 のコイルが挟み込まれたような状態となっている。

【0038】

なお、前記保持部 10 を構成する支持部 10a, 10a および当接部 10b は、該保持部 10 の包囲部 8 側端部を基端部として一体形成されている。また、この保持部 10 の基端部は、包囲部 8 と一体形成されている。

20

また、前記引掛部 10c は、前記周面壁部 7 と一体形成されている。

また、前記連結板部 10d は、前記支持部 10a, 10a と一体形成されている。

以上のようにしてヘッドレスト本体 5 が構成されている。

【0039】

続いて、ヘッドレストを構成し、前記ヘッドレスト本体 5 を、前記ロックブラケット 4 に対して複数の傾斜角度でロックするロック機構について説明する。

ロック機構は、図 2～図 10 に示すように、複数のロック用孔 20…と、ピン貫通孔 21 と、ロック部材 22 と、前記付勢部材 23 と、付勢ストッパー部 24 とを有している。

30

【0040】

前記複数のロック用孔 20…は、図 8～図 10 に示すように、それぞれ、後述するロックピン部 22a が挿入されるものであり、前記ロックブラケット 4 の上端部 4d に、該ロックブラケット 4 を、左右の厚さ方向に貫通して形成されている。また、これら複数のロック用孔 20…は、前記ヘッドレスト本体 5 の回転方向に沿って並設されている。

なお、本実施の形態において、これら複数のロック用孔 20…は、前記ロックブラケット 4 に対して 4 つ形成されている。

【0041】

前記ピン貫通孔 21 は、図 2 および図 3, 図 5～図 7 に示すように、後述するロックピン部 22a が挿入されるものであり、前記ヘッドレスト本体 5 の包囲部 8 のうち、前記並設された複数のロック用孔 20…上を通過する位置に形成されている。また、このピン貫通孔 21 は、前記包囲部 8 を構成する一対の補強リブ 8a, 8a のうち、前記補強部 6c が設けられる補強リブ 8a とは反対側の補強リブ 8a に形成されている。

40

すなわち、この包囲部 8 に形成されたピン貫通孔 21 と、包囲部 8 によって包囲されたロックブラケット 4 の各ロック用孔 20…とは、前記ヘッドレスト本体 5 の傾斜角度に応じて、互いに重なり合うように設定されている。

なお、ピン貫通孔 21 は、前記補強部 6c の内部に形成された貫通孔 21a と、前記包囲部 8 を介して連続するようにして配置されている。つまり、これらピン貫通孔 21 と貫通孔 21a との間に、前記複数のロック用孔 20…が位置するように設定されており、これらピン貫通孔 21 と、ロック用孔 20 と、貫通孔 21a とに対して同時に、後述するロ

50

ックピン部 2 2 a が挿入されることになる。

【0042】

前記ロック部材 2 2 は、図 2 および図 3、図 5～図 7、図 9 に示すように、ロックピン部 2 2 a と、シャフト部 2 2 b と、連結部 2 2 c と、から構成されている。

また、これらロックピン部 2 2 a と、シャフト部 2 2 b と、連結部 2 2 c とは一体形成されており、略 J 字型となるように構成されている。すなわち、ロック部材 2 2 は、一本の金属棒を屈曲加工することにより形成されている。

また、このロック部材 2 2 は、前記周面壁部 7 に形成された挿入スリット 7 a から挿入される。

なお、本実施の形態では、ロック部材 2 2 を一体形成したが、これに限られるものではなく、ロックピン部 2 2 a と、シャフト部 2 2 b と、連結部 2 2 c とを別体として形成した上で、これら各部材を適宜組み合わせるようにしても良い。

【0043】

ロックピン部 2 2 a は、前記ピン貫通孔 2 1 を貫通した状態を保持しつつ、先端部が、前記複数のロック用孔 2 0 … に抜き差しされるものである。すなわち、このロックピン部 2 2 a の先端部は、ロック用孔 2 0 から引き抜かれた際であっても、前記ピン貫通孔 2 1 に挿入された状態となっており、差し込まれた際には、ピン貫通孔 2 1 と、ロック用孔 2 0 と、貫通孔 2 1 a とに挿入された状態となる。

【0044】

シャフト部 2 2 b は、前記ロックピン部 2 2 a と平行に配置されるとともに該ロックピン部 2 2 a を操作するためのものである。また、このシャフト部 2 2 b は、前記ロックピン部 2 2 a よりも長尺に設定されている。

このシャフト部 2 2 b は、ロック部材 2 2 自体を前記挿入スリット 7 a から挿入してから、前記抱持部 6 d のアーチの内側にも挿入されるとともに、前記支持部 6 e の突出方向側端面の曲面に載せられる。さらに、シャフト部 2 2 b の端部が、前記挿入スリット 7 a が形成された周面壁部 7 と対向する周面壁部 7 の貫通孔 7 b に挿入される。

なお、このシャフト部 2 2 b の端部は、前記貫通孔 7 b を貫通した状態を保持しており、このシャフト部 2 2 b の端部に、前記ボタン 1 1 が取り付けられている。

【0045】

連結部 2 2 c は、前記ロックピン部 2 2 a とシャフト部 2 2 b とを連結するためのものである。この連結部 2 2 c は、前記ロックピン部 2 2 a の軸心と、シャフト部 2 2 b の軸心とを結ぶ直線に沿って設けられている。

また、この連結部 2 2 c は、前記付勢部材 2 3 に当接するとともに、この付勢部材 2 3 に付勢された状態で、後述する付勢ストッパー部 2 4 に当接している。

【0046】

ここで、図 9 に示すように、前記シャフト部 2 2 b の軸心と、前記ロックピン部 2 2 a の軸心とを結ぶ直線の延長線上に、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b の軸心が配置されている。なお、このヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b の軸心は、上述のように前記ヘッドレスト本体 5 の回動中心軸とされている。

図 9 に示すように、ヘッドレスト本体 5 には、クッションパッドおよび表皮が被せられており、ヘッドレスト本体 5 の傾斜角度に応じて、乗員の後頭部に対するクッションパッドおよび表皮の接触部位が変化するように設定されている。また、クッションパッドおよび表皮の形状に応じて接触部位が変化する場合がある。このような場合であっても、各軸心が一直線上に配置されるという位置関係は変わらないように設定されているため、ヘッドレスト本体 5 に加えられた外力を、ロックブラケット 4 を介して一直線に横軸部 1 b に伝達できるようになっている。

なお、図 9 において、乗員の後頭部とクッションパッドおよび表皮との間に記載された「○」で示す 4 ケ所の部位が、乗員の後頭部に対するクッションパッドおよび表皮の接触部位となっている。

【0047】

また、前記複数のロック用孔 20…は、図 9 に示すように、前記横軸部 1b よりも前方に配置されている。したがって、前記包囲部 8 に形成されたピン貫通孔 21 と、横軸部 1b とともに一直線上に配置されるシャフト部 22b およびロックピン部 22a を有するロック部材 22 も、前記横軸部 1b よりも前方に配置されることになる。

【0048】

前記付勢部材 23 は、前記保持部 10 によって、前記前面壁部 6 の背面側に保持されるとともに前記ロック部材 22 の連結部 22c に当接し、この連結部 22c を、前記ロックピン部 22a が前記ピン貫通孔 21 および複数のロック用孔 20…に差し込まれる方向に付勢するものである。また、この付勢部材 23 によって、前記シャフト部 22b も付勢されており、前記貫通孔 7b から抜けないように設定されている。

10

また、この付勢部材 23 は、上述のようにコイルバネであり、特に、該コイルバネ 23 が圧縮する方向に移動する前記ロック部材 22 を、押し返す方向に付勢する押しバネである。

コイルバネ 23 を形成する複数のコイルの外径部分を、コイルバネ 23 の外径部 23a と称し、複数のコイルの内径部分を、コイルバネ 23 の内径部 23b と称する。

【0049】

前記付勢ストッパ部 24 は、前記付勢部材 23 による付勢方向の先に設けられることによって、前記付勢部材 23 によって押し返された連結部 22c が当接するものである。前記連結部 22c を挟んで、前記付勢部材 23 とは反対側の位置に配置されている。すなわち、前記付勢部材 23 によって付勢される連結部 22c が、この付勢部材 23 によって付勢された方向に過剰に移動することを防ぐためのストッパである。

20

また、この付勢ストッパ部 24 は、前記保持部 10 の基端部と一体形成されており、前記連結部 22c が当接する面は、この連結部 22c の外径部に合わせて凹んだ曲面とされている。

前記ヘッドレスト本体 5 を、ロック機構によってロックしている状態においては、前記連結部 22c は、前記付勢部材 23 によって付勢ストッパ部 24 に当接するように付勢されている。一方、前記シャフト部 22b を操作して、前記ロックピン部 22a の先端部をロック用孔 20 から抜き、ヘッドレスト本体 5 をアンロックしている状態においては、前記連結部 22c は、前記付勢ストッパ部 24 から離間しており、前記付勢部材 23 は圧縮した状態となる。

30

以上のようにしてロック機構が構成されている。

【0050】

続いて、ヘッドレストを構成し、前記ヘッドレスト本体 5 の回転に伴ってクリック感を生起するクリック機構について説明する。

クリック機構は、図 10 および図 11 に示すように、突起部 30、32 と、凹凸係合部 31、33 と、を有している。なお、これら突起部 30、32 と凹凸係合部 31、33 とのうちの一方が、前記ヘッドレスト本体 5 に設けられており、他方が、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1b またはロックブラケット 4 に設けられている。

【0051】

図 10 においては、前記ヘッドレスト本体 5 の包囲部 8 とロックブラケット 4 との間にクリック機構が設けられる形態を示している。すなわち、前記突起部 30 と凹凸係合部 31 とのうちの一方が、前記包囲部 8 に設けられており、他方は、前記ロックブラケット 4 に設けられている。

40

【0052】

図 10 (a) に示すクリック機構においては、前記突起部 30 が、前記包囲部 8 に設けられている。また、この突起部 30 は、前記包囲部 8 から前記ロックブラケット 4 に向かって突出するようにして形成されている。

すなわち、前記突起部 30 は、この突起部 30 を包囲部 8 に取り付けるための天井部 30a と一体形成されている。そして、前記包囲部 8 の上端部に形成された隙間 8f の位置に、前記突起部 30 と一体形成された天井部 30a が、前記包囲部 8 と一体形成されるよ

50

うにして設けられている。これによって、前記突起部 30 を前記包囲部 8 に設けることができるようになっている。

【0053】

前記凹凸係合部 31 は、前記突起部 30 が係合する複数の凹凸部 31a, 31b を前記ヘッドレスト本体 5 の回動方向に沿って連続して形成してなるものであり、前記ロックブラケット 4 の上端部 4d に設けられている。

すなわち、凹凸係合部 31 は、連続する凸部 31a と凹部 31b とをロックブラケット 4 の上端部 4d に一体形成することによって構成されている。

【0054】

図 10 (b) に示すクリック機構においては、前記突起部 30 が、前記ロックブラケット 4 の上端部 4d に設けられている。すなわち、突起部 30 は、前記ロックブラケット 4 の上端部 4d に一体形成されており、このロックブラケット 4 の上端部 4d から上方に向かって突出している。

【0055】

前記凹凸係合部 31 は、前記包囲部 8 に設けられている。また、この凹凸係合部 31 は、前記包囲部 8 から前記ロックブラケット 4 側に、凸部 31a および凹部 31b を向けるようして形成されている。

すなわち、前記凹凸係合部 31 は、この凹凸係合部 31 を包囲部 8 に取り付けるための天井部 30a と一体形成されている。そして、前記包囲部 8 の上端部に形成された隙間 8f の位置に、前記凹凸係合部 31 と一体形成された天井部 30a が、前記包囲部 8 と一体形成されるようして設けられている。これによって、前記凹凸係合部 31 を前記包囲部 8 に設けることができるようになっている。

【0056】

図 10 (a) および (b) に示すクリック機構のいずれにおいても、前記突起部 30 が、前記凹凸係合部 31 の複数の凸部 31a … を乗り越えて、この凸部 31a に隣接する凹部 31b に係合するように動くことになる。そして、これに伴って、クリック感が生起するように構成されている。

また、このようなクリック機構は、前記ロック機構によってヘッドレスト本体 5 の回動にロックがかかる際に、前記突起部 30 が、前記凹凸係合部 31 の凸部 31a を乗り越えて凹部 31b に係合するように設定されている。つまり、クリック機構とロック機構とが連動することになり、前記突起部 30 が凹部 31b に係合する際に、ロックピン部 22a を、複数のロック用孔 20 … に差し込ませることができる。

【0057】

図 11 においては、前記ヘッドレスト本体 5 の把持部 9 とヘッドレストピラー 1 の横軸部 1b との間にクリック機構が設けられる形態を示している。すなわち、前記突起部 32 と凹凸係合部 33 とのうちの一方が、前記把持部 9 に設けられており、他方は、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1b に設けられている。

【0058】

図 11 (a) に示すクリック機構においては、前記突起部 32 が、前記把持部 9 の軸受け面 9d に設けられている。また、この突起部 32 は、前記把持部 9 の軸受け面 9d から前記横軸部 1b に向かって突出するようして形成されている。なお、この突起部 32 は、把持部 9 の軸受け面 9d に一体形成されている。

【0059】

前記凹凸係合部 33 は、前記突起部 32 が係合する複数の凹凸部 33a, 33b を前記横軸部 1b の周方向、すなわち、ヘッドレスト本体 5 の回動方向に沿って連続して形成してなるものであり、前記横軸部の外周面に設けられている。なお、この凹凸係合部 33 は、横軸部 1b の外周面に一体的に設けられている。

【0060】

図 11 (b) に示すクリック機構においては、前記突起部 32 が、前記横軸部 1b の外周面に設けられている。すなわち、突起部 32 は、前記横軸部 1b の外周面に一体的に設

10

20

30

40

50

けられており、この横軸部 1 b の外周面から凹凸係合部 3 3 に向かって突出している。

【0061】

前記凹凸係合部 3 3 は、前記把持部 9 の軸受け面 9 d に設けられている。また、この凹凸係合部 3 3 は、前記把持部 9 の軸受け面 9 d から前記横軸部 1 b 側に、凸部 3 3 a および凹部 3 3 b を向けるようにして形成されている。なお、この凹凸係合部 3 3 は、把持部 9 の軸受け面 9 d に凹凸部 3 3 a, 3 3 b を形成することによって、該軸受け面 9 d に設けられている。

【0062】

図 1 1 (a) および (b) に示すクリック機構のいずれにおいても、前記突起部 3 2 が、前記凹凸係合部 3 3 の複数の凸部 3 3 a … を乗り越えて、この凸部 3 3 a に隣接する凹部 3 3 b に係合するように動くことになる。そして、これに伴って、クリック感が生起するように構成されている。

また、このようなクリック機構は、前記ロック機構によってヘッドレスト本体 5 の回動にロックがかかる際に、前記突起部 3 2 が、前記凹凸係合部 3 3 の凸部 3 3 a を乗り越えて凹部 3 3 b に係合するように設定されている。つまり、クリック機構とロック機構とが連動することになり、前記突起部 3 2 が凹部 3 3 b に係合する際に、ロックピン部 2 2 a を、複数のロック用孔 2 0 … に差し込ませることができる。

なお、軸受け面 9 d は、把持部 9 に対して複数備えられているため、前記突起部 3 2 および凹凸係合部 3 3 は、これら複数の軸受け面 9 d … のうち、少なくとも一つの軸受け面 9 d に設けられているものとする。

以上のようにしてクリック機構が構成されている。また、以上のようにしてヘッドレストが構成されている。

なお、本実施の形態においては、図 1 1 (a) に示すクリック機構を採用する。ただし、これに限られるものではなく、適宜変更可能であることは言うまでもない。

【0063】

次に、ヘッドレスト本体 5 を、ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b に取り付ける方法について説明する。

図 8 (b) に示すように、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b には、前記ロックブラケット 4 および取付部 2, 2 が予め取り付けられている。なお、これらロックブラケット 4 および取付部 2, 2 は、上述のように溶接等により、横軸部 1 b に対して強固に接合固定されている。

前記ヘッドレスト本体 5 には、前記ロック部材 2 2 および付勢部材 2 3 が取り付けられていない状態となっている。これに伴って、前記ボタン 1 1 も取り付けられていない状態となっている。

【0064】

まず、このようなヘッドレスト本体 5 を、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b に対して取り付け。すなわち、ヘッドレスト本体 5 の下端部に設けられるとともに下方（横軸部 1 b 側）に向かって開放する開放部 9 a に、前記横軸部 1 b およびロックブラケット 4 を差し込むようにして、ヘッドレスト本体 5 を横軸部 1 b に取り付ける。

この時、ロックブラケット 4 を、前記包囲部 8 の下端部に形成された差込口 8 d から包囲部 8 内部に差し込むようにする。

また、前記開放部 9 a に差し込まれた横軸部 1 b は、この開放部 9 a を含んで構成された把持部 9 によって把持された状態となる。すなわち、把持部 9 に備えられた軸受け面 9 d … によって、前記横軸部 1 b の長さ方向に沿って該横軸部 1 b の外周面を受けるようにする。

【0065】

続いて、前記周面壁部 7 に形成された挿入スリット 7 a から、前記ロック部材 2 2 を挿入する。

前記シャフト部 2 2 b は、前記抱持部 6 d のアーチの内側に挿入するとともに、前記支持部 6 e の突出方向側端面に載せるようにする。さらに、端部を差し込んでいき、周面壁

10

20

30

40

50

部 7 に形成された貫通孔 7 b に挿通させる。

これと同時に、前記ロックピン部 2 2 a を、前記ピン貫通孔 2 1 および複数のロック用孔 2 0 … のいずれかに差し込むようにする。

そして、前記連結部 2 2 c を付勢ストッパ部 2 4 に当接させた状態まで、前記ロックピン部 2 2 a およびシャフト部 2 2 b を深く差し込むようにする。

【0066】

続いて、コイルバネである付勢部材 2 3 を保持部 1 0 によって保持する。まず、付勢部材 2 3 の連結部 2 2 c 側端部を、該付勢部材 2 3 を圧縮させたり弾性的に屈曲させたりしながら、前記一对の支持部 1 0 a, 1 0 a と当接部 1 0 b との間に差し込む。また、付勢部材 2 3 の周面壁部 7 側端部を前記引掛部 1 0 c に引掛ける。

10

なお、本実施の形態においては、前記付勢部材 2 3 の連結部 2 2 c 側端部を取り付けてから、周面壁部 7 側端部を取り付ける手順としているが、これに限られるものではなく、周面壁部 7 側端部から取り付けるようにしても良い。また、その他の方法を採用して付勢部材 2 3 を取り付けても良く、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

【0067】

続いて、前記横軸部 1 b に取り付けられた取付部 2, 2 と、前記ヘッドレスト本体 5 の前面壁部 6 の背面側に設けられた取付部 6 f, 6 f との間に、前記付勢部材 3, 3 を取り付ける。すなわち、付勢部材 3, 3 の上端部を、前記取付部 6 f, 6 f にそれぞれ引掛けるとともに、下端部を、前記取付部 2, 2 にそれぞれ引掛ける。

20

なお、本実施の形態においては、付勢部材 3 よりも先に付勢部材 2 3 を取り付ける手順を採用したが、これに限られるものではなく、付勢部材 3 から取り付ける手順を作用しても良いものとする。

以上のようにしてヘッドレスト本体 5 を、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b に取り付けることができる。

【0068】

次に、以上のように構成されたヘッドレストの動作について説明する。

ヘッドレストの動作は、図 9 に示すように、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b に対して前後方向に回動自在に取り付けられたヘッドレスト本体 5 の前後方向への回動に基づくものである。

また、ヘッドレスト本体 5 は、前記付勢部材 3, 3 によって、該ヘッドレスト本体 5 をヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b 側に引き寄せる方向に付勢されている。したがって、ヘッドレスト本体 5 が後方に引き寄せられるとともに、前記ロックピン部 2 2 a が、複数のロック用孔 2 0 … のうちの最も後方にあるロック用孔 2 0 に挿入された状態が、ヘッドレスト本体 5 の前後方向への回動の通常位置とされている。

30

【0069】

ヘッドレスト本体 5 を前後方向に回動させる際は、前記ロック部材 2 2 を操作する。すなわち、前記ロックピン部 2 2 a を、ピン貫通孔 2 1 を貫通した状態を保持しつつ、先端部をロック用孔 2 0 から抜くようにする。これによって、ロックが解除された状態となり、ヘッドレスト本体 5 を前後方向に回動させることができる。

ロックピン部 2 2 a の先端部をロック用孔 2 0 から抜く際には、前記シャフト部 2 2 b のボタン 1 1 が取り付けられる端部を、該シャフト部 2 2 b の軸方向に沿って付勢部材 2 3 が圧縮する方向に押し込む。これによって、ロックピン部 2 2 a の先端部をロック用孔 2 0 から抜くことができる。

40

この時、付勢部材 2 3 は保持部 1 0 に保持された状態で圧縮する。ボタン 1 1 を押し込む操作を止めると、付勢部材 2 3 によって連結部 2 2 c が押し戻され、これに伴って、ロックピン部 2 2 a はロック用孔 2 0 に差し込まれる方向に移動し、シャフト部 2 2 b も元に戻ろうとする。

【0070】

ロックピン部 2 2 a を最後方のロック用孔 2 0 から抜き、ヘッドレスト本体 5 を、通常位置よりも後方に回転させた時には、ヘッドレスト本体 5 の前側のストッパ部 8 b が、

50

ロックブラケット 4 の前端 4 a に当接する。これによって、ヘッドレスト本体 5 の後方への回転を規制できるようになっている。

【0071】

ヘッドレスト本体 5 を前方に一段階回転させるに際し、ロックピン部 2 2 a が最後方のロック用孔 2 0 に差し込まれている状態から、二番目に後方に位置するロック用孔 2 0 に差し込む場合は、まず、前記シャフト部 2 2 b のボタン 1 1 が取り付けられた端部を押し込み、ロックピン部 2 2 a の先端部を、最後方のロック用孔 2 0 から抜く。

続いて、ヘッドレスト本体 5 を前方へ回転させる。

この時、図 1 1 (a) に示すクリック機構の突起部 3 2 が、前記凹凸係合部 3 3 の凸部 3 3 a を乗り越えて、この凸部 3 3 a に隣接する凹部 3 3 b に係合するように動き、これに伴って、クリック感が生起する。

10

また、このクリック機構とロック機構は連動しているため、前記突起部 3 2 が、凸部 3 3 a を乗り越えるのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、最後方のロック用孔 2 0 と二番目に後方のロック用孔 2 0 との間を移動する。さらに、前記突起部 3 2 が、凹部 3 3 b に係合するのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、二番目に後方のロック用孔 2 0 に差し込まれることになる。

この時、前記ロック部材 2 2 の連結部 2 2 c は、前記付勢部材 2 3 によって付勢されているため、前記シャフト部 2 2 b を操作せずとも、前記ロックピン部 2 2 a を付勢部材 2 3 の付勢力によって自動的にロック用孔 2 0 に差し込むことができる。

【0072】

20

このようにしてヘッドレスト本体 5 を前方に一段階回転させることができる。

ロックピン部 2 2 a を、二番目に後方のロック用孔 2 0 から、三番目に後方のロック用孔 2 0 (すなわち、前方から二番目のロック用孔 2 0) に差し込む場合も同様であり、この三番目に後方のロック用孔 2 0 から、最前方のロック用孔 2 0 に差し込む場合も同様の動作となる。

【0073】

ロックピン部 2 2 a を最前方のロック用孔 2 0 から抜き、ヘッドレスト本体 5 を、より前方に回転させた時には、ヘッドレスト本体 5 の後側のストッパー部 8 c、8 c が、ロックブラケット 4 の後端 4 b に当接する。これによって、ヘッドレスト本体 5 の前方への回転を規制できるようになっている。

30

【0074】

一方、ヘッドレスト本体 5 を後方に一段階回転させるに際し、ロックピン部 2 2 a が最前方のロック用孔 2 0 に差し込まれている状態から、二番目に前方に位置するロック用孔 2 0 に差し込む場合は、まず、前記シャフト部 2 2 b のボタン 1 1 が取り付けられた端部を押し込み、ロックピン部 2 2 a の先端部を、最前方のロック用孔 2 0 から抜く。

続いて、ヘッドレスト本体 5 を後方へ回転させる。

この時、図 1 1 (a) に示すクリック機構の突起部 3 2 が、前記凹凸係合部 3 3 の凸部 3 3 a を乗り越えて、この凸部 3 3 a に隣接する凹部 3 3 b に係合するように動き、これに伴って、クリック感が生起する。

また、このクリック機構とロック機構は連動しているため、前記突起部 3 2 が、凸部 3 3 a を乗り越えるのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、最前方のロック用孔 2 0 と二番目に前方のロック用孔 2 0 との間を移動する。さらに、前記突起部 3 2 が、凹部 3 3 b に係合するのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、二番目に前方のロック用孔 2 0 に差し込まれることになる。

40

この時、前記ロック部材 2 2 の連結部 2 2 c は、前記付勢部材 2 3 によって付勢されているため、前記シャフト部 2 2 b を操作せずとも、前記ロックピン部 2 2 a を付勢部材 2 3 の付勢力によって自動的にロック用孔 2 0 に差し込むことができる。

【0075】

このようにしてヘッドレスト本体 5 を後方に一段階回転させることができる。

ロックピン部 2 2 a を、二番目に前方のロック用孔 2 0 から、三番目に前方のロック用

50

孔 20（すなわち、後方から二番目のロック用孔 20）に差し込む場合も同様であり、この三番目に前方のロック用孔 20 から、最後方のロック用孔 20 に差し込む場合も同様の動作となる。

以上のようにして、ヘッドレスト本体 5 を前後方向に回動操作して、ヘッドレストを動作させることができる。

【0076】

本実施の形態によれば、前記ヘッドレスト本体 5 の包囲部 8 は、前記前面壁部 6 の背面側から後方に向かって突出し、前記ロックブラケット 4 の左右両側面にそれぞれ対向する一对の補強リブ 8 a、8 a を含んで構成されているので、これら一对の補強リブ 8 a、8 a によってヘッドレスト本体 5 の剛性を向上させることができる。

10

また、前記ヘッドレスト本体 5 の包囲部 8 は、前記ロックブラケット 4 の前端 4 a と後端 4 b にそれぞれ当接するストッパー部 8 b、8 c、8 c を含んで構成されているので、前記ヘッドレスト本体 5 を、前記前側のストッパー部 8 b と後側のストッパー部 8 c、8 c との間に前後方向に回動させることができる。これによって、前記ヘッドレスト本体 5 を回動させる範囲を明確にすることができるので、このヘッドレスト本体 5 の回動操作は、前記前側のストッパー部 8 b と後側のストッパー部 8 c、8 c との間の範囲でのみ行われることになり、前記ヘッドレスト本体 5 の回動操作を安定的に行うことが可能となる。

【0077】

なお、ヘッドレスト本体 5 の回動操作を安定的に行う、とは、例えば前記ストッパー部 8 b、8 c、8 c や前記ロック機構がない場合、前記ヘッドレスト本体 5 は際限なく前後方向に回動する。この場合、ヘッドレスト本体 5 の傾斜角度の自由度は非常に高いが、その反面、傾斜角度を調整しようとしても毎回同じ位置に調整できない場合がある。そもそも、ヘッドレスト本体 5 をどこまで回動させて、どこで回動を止めたら良いのかが不明であり、自由度が高すぎるゆえに操作が安定しない場合がある。本実施の形態のヘッドレスト本体によれば、このような操作の不安定性をなくすことができるため、乗員の頭部をより確実に支持することが可能となっている。

20

【0078】

また、前記前面壁部 6 に、前記ロックブラケット 4 を前方に露出させる開口部 6 a が形成されことによって、前記ヘッドレスト本体 5 の軽量化を図るだけでなく、前記前側のストッパー部 8 b を、前記一对の補強リブ 8 a、8 a の前面壁部 6 側端部間に確実に架設できるとともに、前記前面壁部 6 と確実に一体形成できる。

30

さらに、前記前側のストッパー部 8 b が前面壁部 6 と一体形成され、前記後側のストッパー部 8 c、8 c が一对の補強リブ 8 a、8 a と一体形成されているので、前記ロックブラケット 4 の前端 4 a および後端 4 b に当たる該前側のストッパー部 8 b および後側のストッパー部 8 c、8 c 自体の剛性を向上させるだけでなく、前記ヘッドレスト本体 5 の剛性もより向上させることができる。

【0079】

また、前記前面壁部 6 は、乗員の頭部を受ける部分の背面側に設けられるとともに、この前面壁部 6 を補強するための補強部 6 b、6 b、6 c を備えているので、この補強部 6 b、6 b、6 c によって前面壁部 6 の剛性を向上させることができ、延いては、前記ヘッドレスト本体 5 の剛性をさらに向上させることができる。

40

なお、前記前面壁部 6 の背面側には、前記一对の補強リブ 8 a、8 a を含む包囲部 8 や前記補強部 6 b、6 b、6 c とは別に、該前面壁部 6 の背面側から後方に向かって突出するようにして形成された複数の補助補強部（例えば、前記抱持部 6 d や支持部 6 e、取付部 6 f、6 f、保持部 10 等）が形成されている。これによって、前記補強部 6 b、6 b、6 c だけでなく、これら補助補強部によっても、前記前面壁部 6、延いては、ヘッドレスト本体 5 の剛性をより一層向上させることができる。

【0080】

<第 2 の実施の形態>

次に、図面を参照して本発明の第 2 の実施の形態について説明する。なお、説明の便宜

50

上、上述した第 1 の実施の形態とは異なる構成部分のみについて説明する。

【0081】

図 12 はヘッドレストの一例を示す分解斜視図である。

本実施の形態のヘッドレストは、ヘッドレストピラー 1 と、ロックブラケット 4 と、ヘッドレスト本体 50 と、ロック機構と、クリック機構と、を備えている。

なお、本実施の形態のヘッドレストは、クッションパッドである樹脂を、型枠内で、前記ヘッドレスト本体 50 と一体的になるように発泡成形させるものであり、このヘッドレスト本体 50 は、樹脂が内部に浸入しないような構成となっている。

また、ヘッドレスト本体 50 は、ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1b に対して前後方向に回動自在に取り付けられるものであり、乗員の頭部を受ける前面壁部 51 と、背面壁部 52 と、底面カバー部 53、53 と、を有している。

10

【0082】

前記前面壁部 51 および背面壁部 52 は、図 12 および図 13 に示すように、これら前面壁部 51 と背面壁部 52 とで一組となるものであり、前記前面壁部 51 の背面側に背面壁部 52 を結合して組み合わせることで、これら前面壁部 51 と背面壁部 52 の内部に空洞ができるように構成されている。この空洞内には、前記前面壁部 51 の背面側に設けられる包囲部 8 等の各部と、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1b および一对の支柱 1a、1a の上端部とを収容し、被覆することができる。

なお、これら前面壁部 51 および背面壁部 52 との間には、互いに組み合わせて一体化した際の樹脂の浸入を防ぐためのシール手段が設けられている。

20

【0083】

また、前面壁部 51 および背面壁部 52 の底面部 51a、52a には、前記底面カバー部 53、53 がそれぞれ差し込まれる差込口を形成するための差込口用切欠部 51b、52b が切欠形成されている。

差込口用切欠部 51b、52b も、これら差込口用切欠部 51b と差込口用切欠部 52b の 2 つで一組となるものであり、これら差込口用切欠部 51b と差込口用切欠部 52b とを組み合わせることで開口部とすることができ、この開口部を、前記底面カバー部 53、53 を差込可能な差込口とすることができる。

差込口は、前記ヘッドレストピラー 1 の一对の支柱 1a、1a に対応して、前記底面部 51a、52a の 2 ヶ所に配置されている。すなわち、前記差込口用切欠部 51b は、前記前面壁部 51 の底面部 51a の 2 ヶ所に形成されており、前記差込口用切欠部 52b は、前記背面壁部 52 の底面部 52a の 2 ヶ所に形成されている。

30

【0084】

また、前面壁部 51 および背面壁部 52 の一側部には、ロック部材 22 のシャフト部 22b の端部に取り付けられるボタン 55 と、このボタン 55 の周縁を装飾する装飾縁部 54 とを取り付けるためのボタン取付部 51c、52c が、側方に突出するようにして形成されている。

これらボタン取付部 51c、52c の突出方向側端部には、前記装飾縁部 54 およびボタン 55 が差し込まれるボタン差込口を形成するためのボタン差込口用切欠部 51d、52d が形成されている。

40

ボタン差込口用切欠部 51d、52d も、これらボタン差込口用切欠部 51d とボタン差込口用切欠部 52d の 2 つで一組となるものであり、これらボタン差込口用切欠部 51d とボタン差込口用切欠部 52d とを組み合わせることで開口部とすることができ、この開口部を、前記装飾縁部 54 およびボタン 55 を差込可能なボタン差込口とすることができる。

【0085】

前記前面壁部 51 および背面壁部 52 には、前記底面部 51a、52a に形成された底面カバー部 53、53 用の差込口と、前記ボタン取付部 51c、52c に形成されたボタン差込口とを除いて開口部は形成されない構成となっている。すなわち、第 1 の実施の形態とは異なり、開口部 6a は設けられていない状態となっている。

50

したがって、前記差込口およびボタン差込口からの樹脂の浸入を防ぐようにしてクッションパッドの成形を行うことによって、前面壁部 5 1 と背面壁部 5 2 との内部空洞部に樹脂が浸入することを防ぐことができる。

【0086】

前記前面壁部 5 1 の背面側には、図 1 3 に示すように、補強部 6 b、6 b や抱持部 6 d、取付部 6 f、包囲部 8、把持部 9、保持部 1 0、ロック機構等が設けられている。

なお、本実施の形態においては、第 1 の実施の形態とは異なり、補強部 6 c や支持部 6 e を始めとする各部が設けられていないものとするが、適宜変更可能であることは言うまでもない。

また、本実施の形態においては、第 1 の実施の形態の挿入スリット 7 a に該当するものはなく、前面壁部 5 1 の左右側の壁部の後方への突出長さを短く設定することによって、ロック部材 2 2 を取り付けやすいようにしている。

【0087】

また、第 1 の実施の形態とは異なり、前記補強部 6 b、6 b や抱持部 6 d、取付部 6 f 等の正面側に、凹部や開口部も設けられていないものとする。

なお、このように、前面壁部 6 には前記補強部 6 b、6 b や抱持部 6 d、取付部 6 f 等の正面側に開口部や凹部はないとしたが、図 1 2 に示すように、凹部 5 1 e が形成されているものとする。本実施形態においては、この凹部 5 1 e の背面側には、この凹部 5 1 e に対応する凸部が形成されていないが、適宜、凸部を形成してもよい。このように、前面壁部 5 1 に凹凸を形成することによって、前面壁部 5 1 の剛性を向上できるので、好ましい。

【0088】

本実施の形態の包囲部 8 は、第 1 の実施の形態の包囲部 8 と略同様の構成となっているが、上述のように前面壁部 5 1 に補強部 6 c が設けられていない。このため、ロックピン部 2 2 a の先端部を挿通させるための挿通孔 5 6 が、一対の補強リブ 8 a、8 a のうち、ピン貫通孔 2 1 が形成される補強リブ 8 a とは反対側の補強リブ 8 a に形成されている。

この挿通孔 5 6 は、前記ピン貫通孔 2 1 と、前記包囲部 8 を介して連続するようにして配置されている。つまり、これらピン貫通孔 2 1 と挿通孔 5 6 との間に、ロックブラケット 4 の複数のロック用孔 2 0 …が位置するように設定されており、これらピン貫通孔 2 1 と、ロック用孔 2 0 と、挿通孔 5 6 とに対して同時に、ロックピン部 2 2 a が挿入されることになる。

また、前記前面壁部 5 1 の正面側には、上述のように開口部 6 a が設けられていないため、この包囲部 8 の前側に設けられるストッパー部 8 b はなく、前面壁部 5 1 自体が、前記ロックブラケット 4 の前端 4 a に当接するストッパーとして機能する。

【0089】

本実施の形態の把持部 9 は、第 1 の実施の形態の把持部 9 と略同様の構成となっているが、上述のように前面壁部 5 1 と背面壁部 5 2 とは組み合わされるものであることから、他の部位よりも後方に突出する拡張部 9 b は、本実施の形態の把持部 9 には備えられていないものとする。

本実施の形態においては、第 1 の実施の形態で拡張部 9 b があった部分は、開放部 9 a であるスリットを後方に向かって開放する間隙とされており、ロックブラケット 4 の差し込みに支障がない状態となっている。

なお、本実施の形態の把持部 9 は、前記ヘッドレスト本体 5 0 の前面壁部 5 1 の背面側の下端部に設けられるとともに、左右側壁部と、これら左右側壁部の下端部に架設される下側壁部とによって構成された本体部を含んで構成されている。そして、この本体部に、前記横軸部 1 b およびロックブラケット 4 を差込可能な形状のスリットが形成されており、このスリットが、前記開放部 9 a とされている。

【0090】

前記底面カバー部 5 3、5 3 は、図 1 2 および図 1 4 に示すように、互いに結合された状態の前記前面壁部 5 1 と背面壁部 5 2 との底面部 5 1 a、5 2 a に、前記ヘッドレスト

10

20

30

40

50

ピラー 1 の一对の支柱 1 a, 1 a の位置に対応して設けられるとともに、該支柱 1 a, 1 a が挿通されるスリット 5 3 a, 5 3 a が形成されたものである。

また、この底面カバー部 5 3 は、前記スリット 5 3 a と、周壁部 5 3 b と、鍰部 5 3 c と、を備えている。

【0091】

スリット 5 3 a は、前後方向に長くなる長孔状に形成されている。

このスリット 5 3 a が、前記前面壁部 5 1 および背面壁部 5 2 の底面部 5 1 a, 5 2 a に形成されることによって、前記ヘッドレスト本体 5 0 をスムーズに前後方向に回動させることができる。

【0092】

周壁部 5 3 b は、前記スリット 5 3 a の周縁に配置されるとともに、該スリット 5 3 a を形成するものであり、前記底面部 5 1 a, 5 2 a に形成された差込口に差し込まれて嵌合される。

なお、この周壁部 5 3 b には、図示はしないが、前記底面部 5 1 a, 5 2 a に引っ掛かる爪部等の嵌合手段が設けられているものとする。

【0093】

鍰部 5 3 c は、前記周壁部 5 3 b の下端部に一体形成されており、前記底面部 5 1 a, 5 2 a に当接するものである。

すなわち、この鍰部 5 3 c は、前記底面部 5 1 a, 5 2 a に形成された差込口よりも大径となるように形成されており、底面カバー部 5 3 が該差込口から、前面壁部 5 1 と背面壁部 5 2 との空洞部に没入することを防ぐことができる。

【0094】

また、前記装飾縁部 5 4 は、この装飾縁部 5 4 周縁の鍰部 5 4 a が前記ボタン取付部 5 1 c, 5 2 c に形成されたボタン差込口よりも大径に形成されたものであり、ボタン差込口に差し込まれるとともに嵌合されている。

なお、この装飾縁部 5 4 には、前記ボタン取付部 5 1 c, 5 2 c の内部に引っ掛かる爪部等の嵌合手段が設けられているものとする。

【0095】

前記ボタン 5 5 は、前記装飾縁部 5 4 中央の装着孔部 5 4 b に、該装着孔部 5 4 b の延在方向に沿って進退自在に差し込まれている。

また、このボタン 5 5 は、前記装飾縁部 5 4 の装着孔部 5 4 b 内で引っ掛かるストッパ板部 5 5 a を有している。これによって、装飾縁部 5 4 から外側に露出する外側端面は、装飾縁部 5 4 の鍰部 5 4 a の外側面よりも外側に突出しない構成となっている。

【0096】

なお、前記ロック機構は、第 1 の実施の形態のロック機構と略同様の構成となっているが、前記ボタン 5 5 の外側端面が、装飾縁部 5 4 の鍰部 5 4 a の外側面よりも外側に突出しない構成となっているため、付勢ストッパ部 2 4 は設けられていない。

すなわち、付勢ストッパ部 2 4 がなくても、前記ストッパ板部 5 5 a が代わりに機能するようになっている。

【0097】

前記クリック機構は、前記ヘッドレスト本体 5 0 の回動に伴ってクリック感を生起するものである。

本実施の形態のクリック機構は、図 1 4 に示すように、前記ヘッドレストピラー 1 の一对の支柱 1 a, 1 a と、凹凸係合部 6 0 と、を有している。

【0098】

前記一对の支柱 1 a, 1 a は、図 1 2 および図 1 3 に示すように、左右に離間して配置されており、これら一对の支柱 1 a, 1 a の上端部間に前記横軸部 1 b が架設されるとともに一体形成されている。

本実施の形態のクリック機構としては、これら一对の支柱 1 a, 1 a のうち、少なくとも一方の支柱 1 a を用いる。

10

20

30

40

50

【0099】

前記凹凸係合部60は、図14に示すように、前記一对の底面カバー部53、53のうち、少なくとも一方の底面カバー部53のスリット53a周縁部に対して設けられるとともに、前記少なくとも一方の支柱1aが係合する複数の凹凸部60a、60bを前記ヘッドレスト本体50の回動方向に沿って連続して形成してなるものである。

すなわち、この凹凸係合部60は、前記底面カバー部53の周壁部53bのスリット53a側面に設けられている。

【0100】

凹部60bは、前記支柱1aの外周面に合わせて凹む曲面とされており、この曲面は、前記支柱1aの延在方向に連続している。そして、前記支柱1aの延在方向に沿って、この曲面である凹部60bを係合できるようになっている。

また、凹部60bは、図14(b)に示すように複数設けられており、これら複数の凹部60b…は、前記ヘッドレスト本体50の傾斜角度に応じて段階的に傾斜するように配置されている。

凸部60aは、これら複数の凹部60b…間に複数配置されている。また、これら複数の凸部60a…と複数の凹部60b…とは一体形成されている。

【0101】

本実施の形態のクリック機構は、前記ヘッドレスト本体50が前後方向に回動されることにより、前記少なくとも一方の底面カバー部53に設けられた凹凸係合部60が、前記少なくとも一方の支柱1aに対してクリック感を伴いながら移動するように構成されている。すなわち、前記複数の凸部60a…が、前記少なくとも一方の支柱1aを乗り越え、前記凹部60bが、前記少なくとも一方の支柱1aに係合するように設定されている。

また、前記ロック機構によってヘッドレスト本体50の回動にロックがかかる際に、前記複数の凸部60a…が、前記少なくとも一方の支柱1aを乗り越え、前記凹部60bが、前記少なくとも一方の支柱1aに係合するように設定されており、クリック機構とロック機構とを連動させることができる。

以上のようにしてクリック機構が構成されている。また、以上のようにしてヘッドレストが構成されている。

【0102】

次に、ヘッドレスト本体50を、ヘッドレストピラー1の横軸部1bに取り付ける方法について説明する。

まず、第1の実施の形態と同様に、また図13に示すように、前記横軸部1bを把持部9によって把持するとともに、ロックブラケット4を包囲部8によって包囲できるように、ヘッドレスト本体50の前面壁部51を、前記ヘッドレストピラー1に装着させる。また、ロック部材22や付勢部材23、付勢部材3も取り付ける。

【0103】

その後、前記装飾縁部54およびボタン55も、前記前面壁部51のボタン取付部51cのボタン差込用切欠部51dに嵌め込んでおく。

そして、前記背面壁部52を、前記前面壁部51に対して結合させるようにする。この時、背面壁部52のボタン取付部52cのボタン差込用切欠部52dを、前記前面壁部51のボタン取付部51cのボタン差込用切欠部51dと組み合わせる。これによって、前記装飾縁部54およびボタン55を、ボタン取付部51c、52cに取り付けることができる。

【0104】

次に、予め凹凸係合部60が周壁部53bのスリット53a側に設けられた底面カバー部53、53を、前記前面壁部51および背面壁部52の底面部51a、52aに取り付ける。すなわち、2つの差込用切欠部51bと、2つの差込用切欠部と52bを組み合わせることで形成された2つの差込口に、前記底面カバー部53、53をそれぞれ差し込んで嵌合する。

また、この時に、底面カバー部53のスリット53aに、前記ヘッドレストピラー1の

支柱 1 a を挿通させるようにする。

以上のようにしてヘッドレスト本体 5 0 を、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b に取り付けることができる。

【0105】

次に、以上のように構成されたヘッドレストの動作について説明する。

ヘッドレストの動作は、第 1 の実施の形態と同様に、前記ヘッドレストピラー 1 の横軸部 1 b に対して前後方向に回転自在に取り付けられたヘッドレスト本体 5 0 の前後方向への回転に基づくものである。

なお、ヘッドレスト本体 5 0 の前後方向への回転およびロック機構の動作は、第 1 の実施の形態と略同様であるため、説明を省略する。

10

【0106】

本実施の形態のヘッドレストの動作において、クリック機構は以下のように動作する。

すなわち、ヘッドレスト本体 5 0 を前方に一段階回転させるに際し、ロックピン部 2 2 a が最後方のロック用孔 2 0 に差し込まれている状態から、二番目に後方に位置するロック用孔 2 0 に差し込む場合は、まず、前記シャフト部 2 2 b のボタン 5 5 が取り付けられた端部を押し込み、ロックピン部 2 2 a の先端部を、最後方のロック用孔 2 0 から抜く。

続いて、ヘッドレスト本体 5 0 を前方へ回転させる。

この時、図 1 4 に示すクリック機構の凹凸係合部 6 0 の凸部 6 0 a が、前記支柱 1 a を乗り越えて、前記凹部 6 0 b が、この支柱 1 a に係合するように動き、これに伴って、クリック感が生起する。

20

また、このクリック機構とロック機構は連動しているため、前記凸部 6 0 a が支柱 1 a を乗り越えるのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、最後方のロック用孔 2 0 と二番目に後方のロック用孔 2 0 との間を移動する。さらに、前記凹部 6 0 b が支柱 1 a に係合するのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、二番目に後方のロック用孔 2 0 に差し込まれることになる。

【0107】

なお、本実施の形態では、ロックピン部 2 2 a が最後方のロック用孔 2 0 に差し込まれている状態から、二番目に後方に位置するロック用孔 2 0 に差し込む場合について説明している。

このような動作は、ロックピン部 2 2 a を、二番目に後方のロック用孔 2 0 から、三番目に後方のロック用孔 2 0 (すなわち、前方から二番目のロック用孔 2 0) に差し込む場合も同様であり、この三番目に後方のロック用孔 2 0 から、最前方のロック用孔 2 0 に差し込む場合も同様である。

30

【0108】

一方、ヘッドレスト本体 5 0 を後方に一段階回転させるに際し、ロックピン部 2 2 a が最前方のロック用孔 2 0 に差し込まれている状態から、二番目に前方に位置するロック用孔 2 0 に差し込む場合は、まず、前記シャフト部 2 2 b のボタン 5 5 が取り付けられた端部を押し込み、ロックピン部 2 2 a の先端部を、最前方のロック用孔 2 0 から抜く。

続いて、ヘッドレスト本体 5 0 を後方へ回転させる。

この時、図 1 4 に示すクリック機構の凹凸係合部 6 0 の凸部 6 0 a が、前記支柱 1 a を乗り越えて、前記凹部 6 0 b が、この支柱 1 a に係合するように動き、これに伴って、クリック感が生起する。

40

また、このクリック機構とロック機構は連動しているため、前記凸部 6 0 a が支柱 1 a を乗り越えるのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、最前方のロック用孔 2 0 と二番目に前方のロック用孔 2 0 との間を移動する。さらに、前記凹部 6 0 b が支柱 1 a に係合するのと同時に、ロックピン部 2 2 a の先端部は、二番目に前方のロック用孔 2 0 に差し込まれることになる。

【0109】

なお、本実施の形態では、ロックピン部 2 2 a が最前方のロック用孔 2 0 に差し込まれている状態から、二番目に前方に位置するロック用孔 2 0 に差し込む場合について説明し

50

ている。

このような動作は、ロックピン部 2 2 a を、二番目に前方のロック用孔 2 0 から、三番目に前方のロック用孔 2 0（すなわち、後方から二番目のロック用孔 2 0）に差し込む場合も同様であり、この三番目に前方のロック用孔 2 0 から、最後方のロック用孔 2 0 に差し込む場合も同様である。

以上のようにしてクリック機構を動作させることができる。

【0 1 1 0】

本実施の形態によれば、第 1 の実施の形態と同じように、前記ヘッドレスト本体 5 0 の剛性を向上させつつ、このヘッドレスト本体 5 0 の前後方向への回動操作の安定性を向上させることができるので、好ましい。

また、第 1 の実施の形態とは異なるクリック機構を採用しても、第 1 の実施の形態と同じように、ヘッドレスト本体 5 0 を前後方向に回動させる際にクリック感を得ることができるので、好ましい。

【符号の説明】

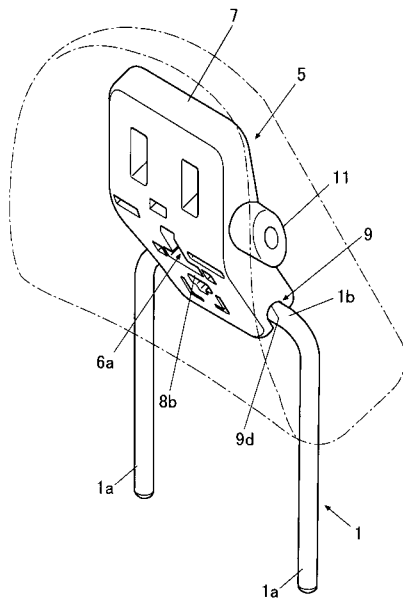
【0 1 1 1】

1	ヘッドレストピラー	
1 a	支柱	
1 b	横軸部	
3	付勢部材	
4	ロックブラケット	20
5	ヘッドレスト本体	
6	前面壁部	
6 a	開口部	
7	周面壁部	
8	包围部	
8 a	補強リブ	
8 b	ストッパー部	
8 c	ストッパー部	
8 d	差込口	
9	把持部	30
9 a	開放部	
9 d	軸受け面	
1 0	保持部	
1 0 a	支持部	
1 0 b	当接部	
2 0	ロック用孔	
2 1	ピン貫通孔	
2 2	ロック部材	
2 2 a	ロックピン部	
2 2 b	シャフト部	40
2 2 c	連結部	
2 3	付勢部材	
3 0	突起部	
3 1	凹凸係合部	
3 1 a	凸部	
3 1 b	凹部	
3 2	突起部	
3 3	凹凸係合部	
3 3 a	凸部	
3 3 b	凹部	50

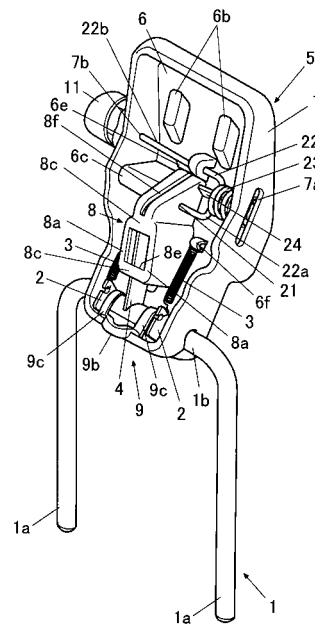
- 5 0 ヘッドレスト本体
- 5 1 前面壁部
- 5 1 a 底面部
- 5 1 b 差込口用切欠部
- 5 2 背面壁部
- 5 2 a 底面部
- 5 2 b 差込口用切欠部
- 5 3 底面カバー部
- 5 3 a スリット
- 5 3 b 周壁部
- 5 3 c 鏑部
- 6 0 凹凸係合部
- 6 0 a 凸部
- 6 0 b 凹部

10

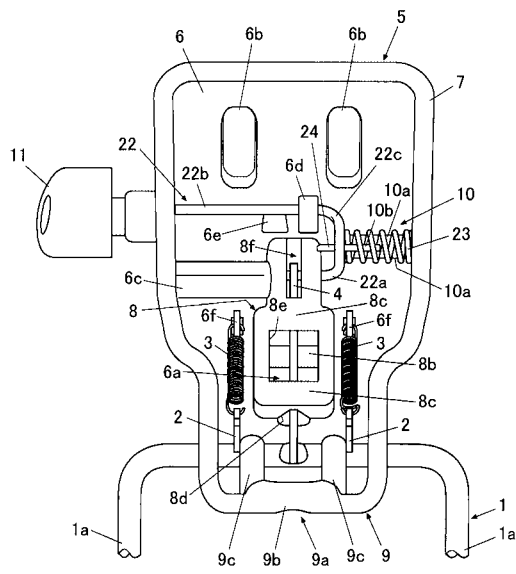
【図 1】



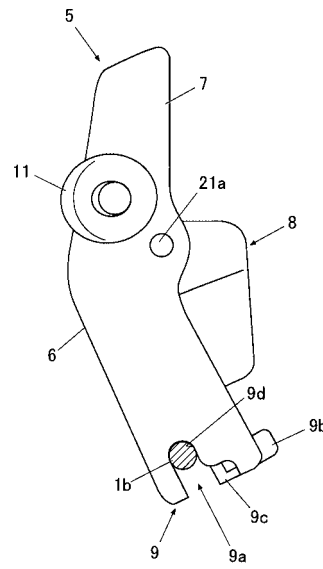
【図 2】



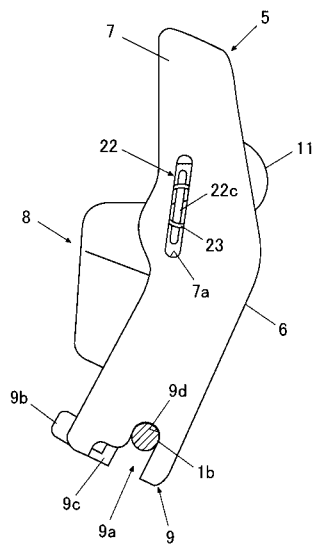
【図 3】



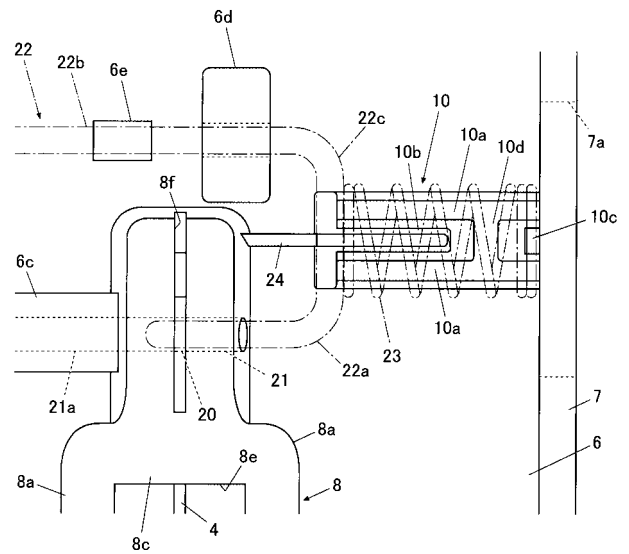
【図 4】



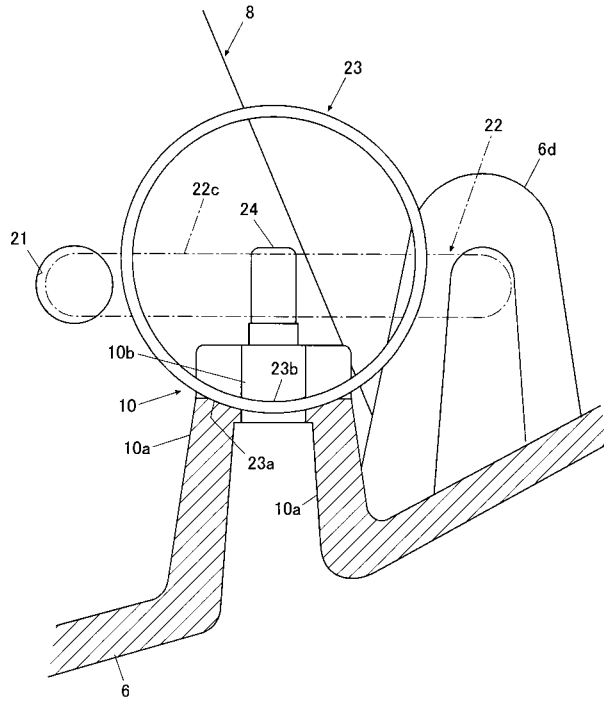
【図 5】



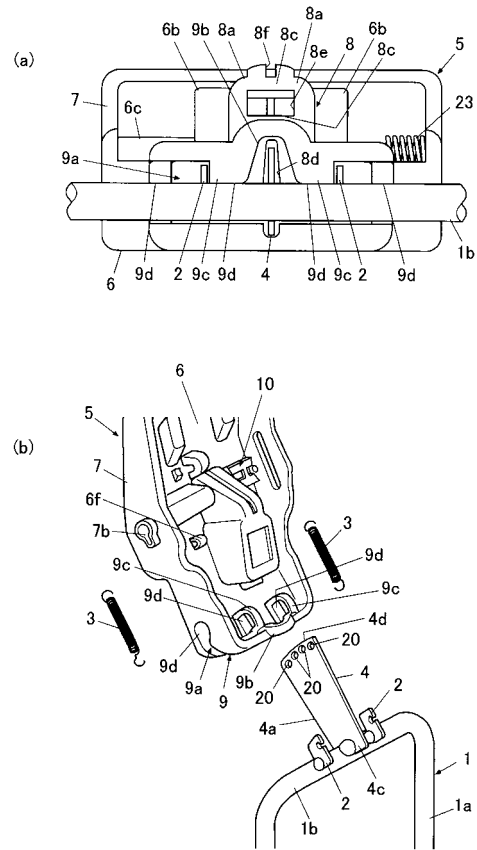
【図 6】



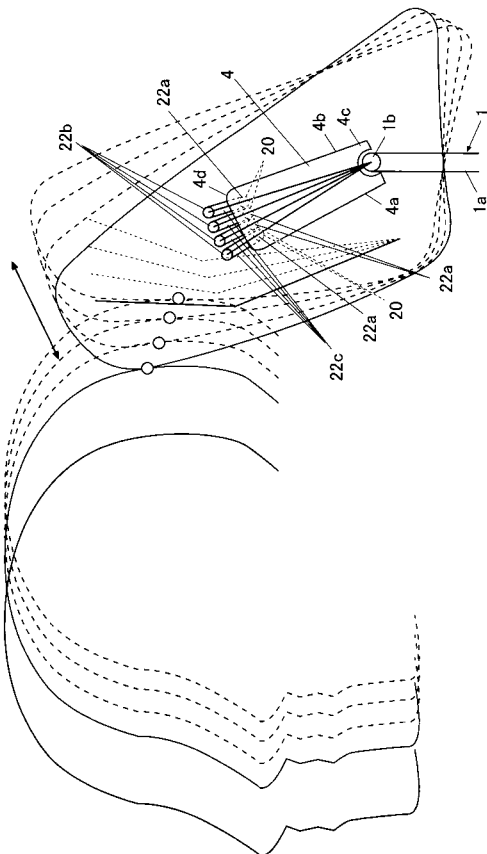
【図 7】



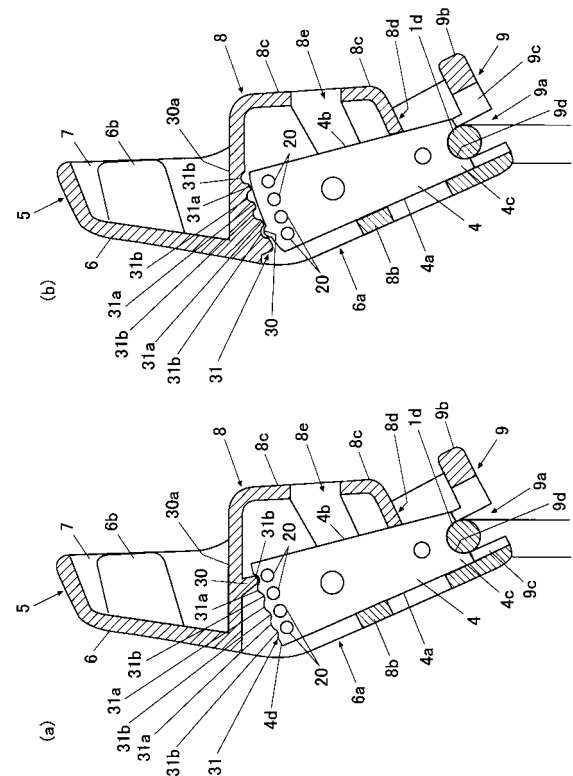
【図 8】



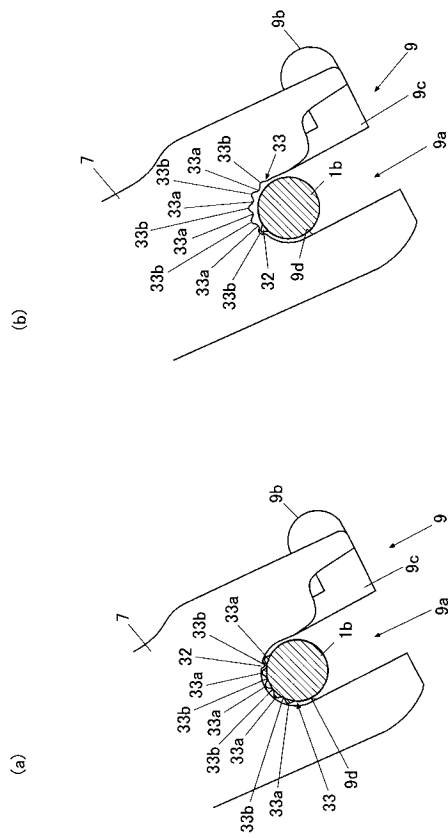
【図 9】



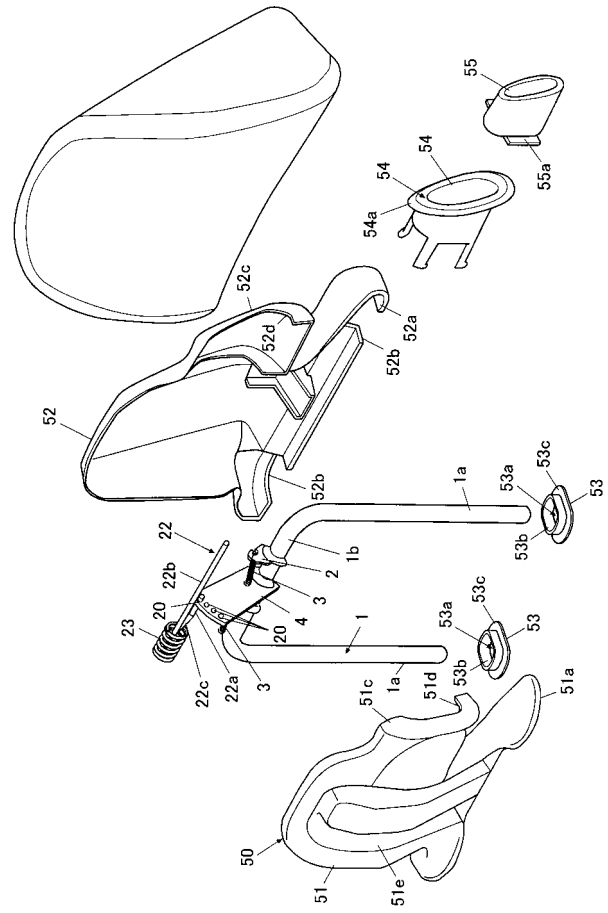
【図 10】



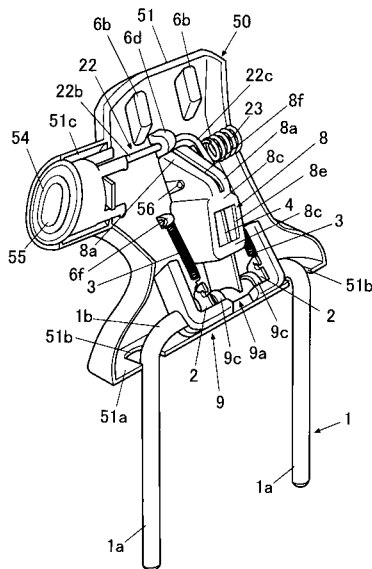
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】

